

主要活断層の長期評価における 配色について

平成29年3月13日
地震本部事務局

○背景

地震調査研究推進本部では、主要活断層で発生する地震の長期評価の結果を公表しているが、昨年8月の地震発生確率に基づくランク分けの導入に伴って配色の変更を行った。

その際、以下の問題点が指摘された。

- ・Zランクと評価された活断層の色に黒が用いられているが、黒は危険の深刻度を表すカラーコードとしては最も深刻であることを表現している(ISO22324、トリアージのタグ等)ことから、適切な配色ではない。
- ・陸地の背景色に黄緑色が用いられているが、緑は安全を意味するカラーコードとして表現されるため、「活断層のリスクがない」と認知される恐れがある。

→国民が活断層のリスクを正しく理解できるとともに、見やすさにも配慮した配色に変更する必要がある。

○配色変更にあたっての考え方





- ・活断層の配色については、ISO22324や他の警戒情報と整合が取れるようにする。
- ・陸地の背景色については、活断層の色の視認性が損なわれないよう配慮する。

(例) 気象庁が発表する警報等の情報における配色

使用する基本配色 (RGB 値)	← 警戒度 大		警戒度 小 →			発表なし	
	 0,0,0	 200,0,255	 255,40,0	 255,170,0	 250,245,0	 200,200,203	 242,242,255
気象警報注意報		土砂災害警戒情報 (黒との縞)	警報		注意報	発表なし	
台風情報(経路図)			暴風域		強風域		
台風情報(暴風域に入る確率) 時間変化		70~100%	30~70%		5~30%		
台風情報(暴風域に入る確率) 分布表示					発表中	発表なし	
海上警報		台風警報	暴風警報	強風警報	風警報		
指定河川洪水予報	はん濫発生		はん濫危険・警戒		はん濫注意		
津波警報・注意報		津波警報(大津波) (幅2倍)	津波警報(津波)		津波注意報		
噴火警報・予報 (噴火警戒レベル導入火山)		レベル 5 避難	レベル 4 避難準備	レベル 3 入山規制	レベル 2 火口周辺規制		レベル 1 平常
噴火警報・予報 (噴火警戒レベル未導入火山)		居住地域 嚴重警戒		入山危険	火口周辺危険		平常
噴火警報・予報 (海底火山)				周辺海域警戒			平常
レーダー・ナウキャスト(雷)		活動度4	活動度3	活動度2	活動度1		
レーダー・ナウキャスト(竜巻)			発生確度2		発生確度1		

※「気象庁ホームページにおける気象情報の配色に関する設定方針(平成24年5月)」より引用

変更方針1: Zランクの活断層のみ黒から黄色に変更

凡例	色 (RGB)	
Sランクの活断層		255,0,0
Aランクの活断層		254,153,0
Zランクの活断層		255,255,0
Xランクの活断層		153,153,153







案1: 陸地の背景色が黄緑 (RGB179,223,127) (現行と同じ)

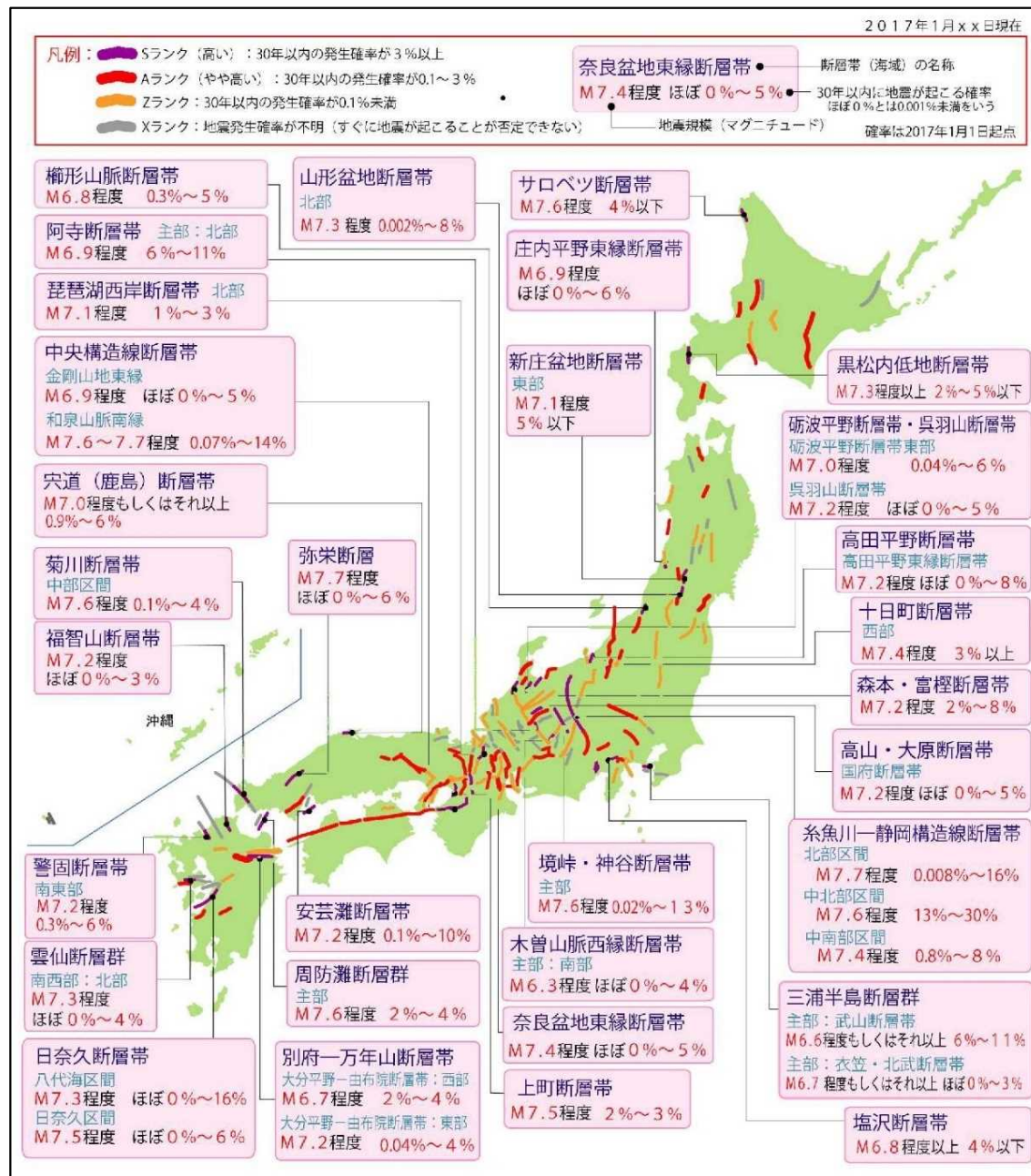
(注) 掲載している図はイメージのため、実際の内容と異なる部分があります。 4

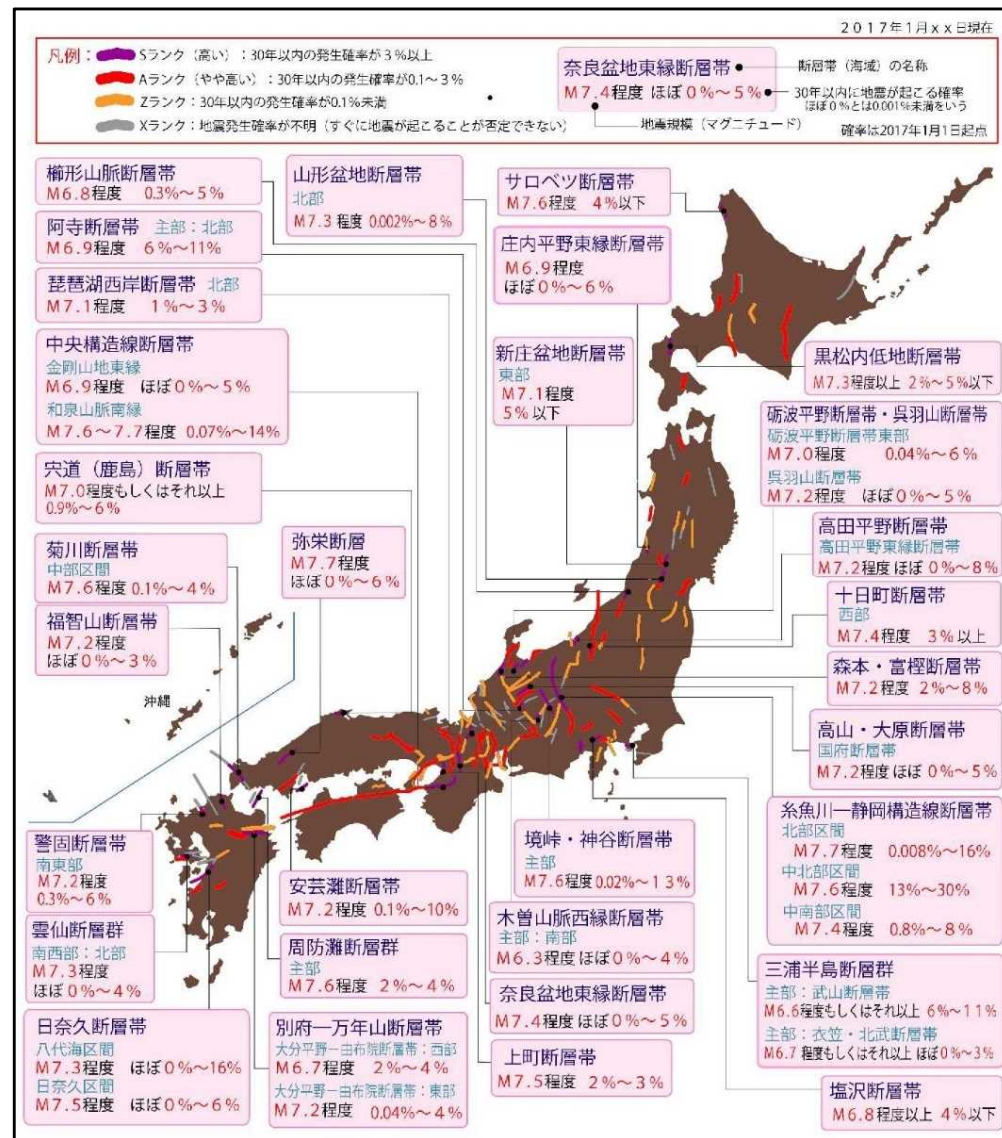
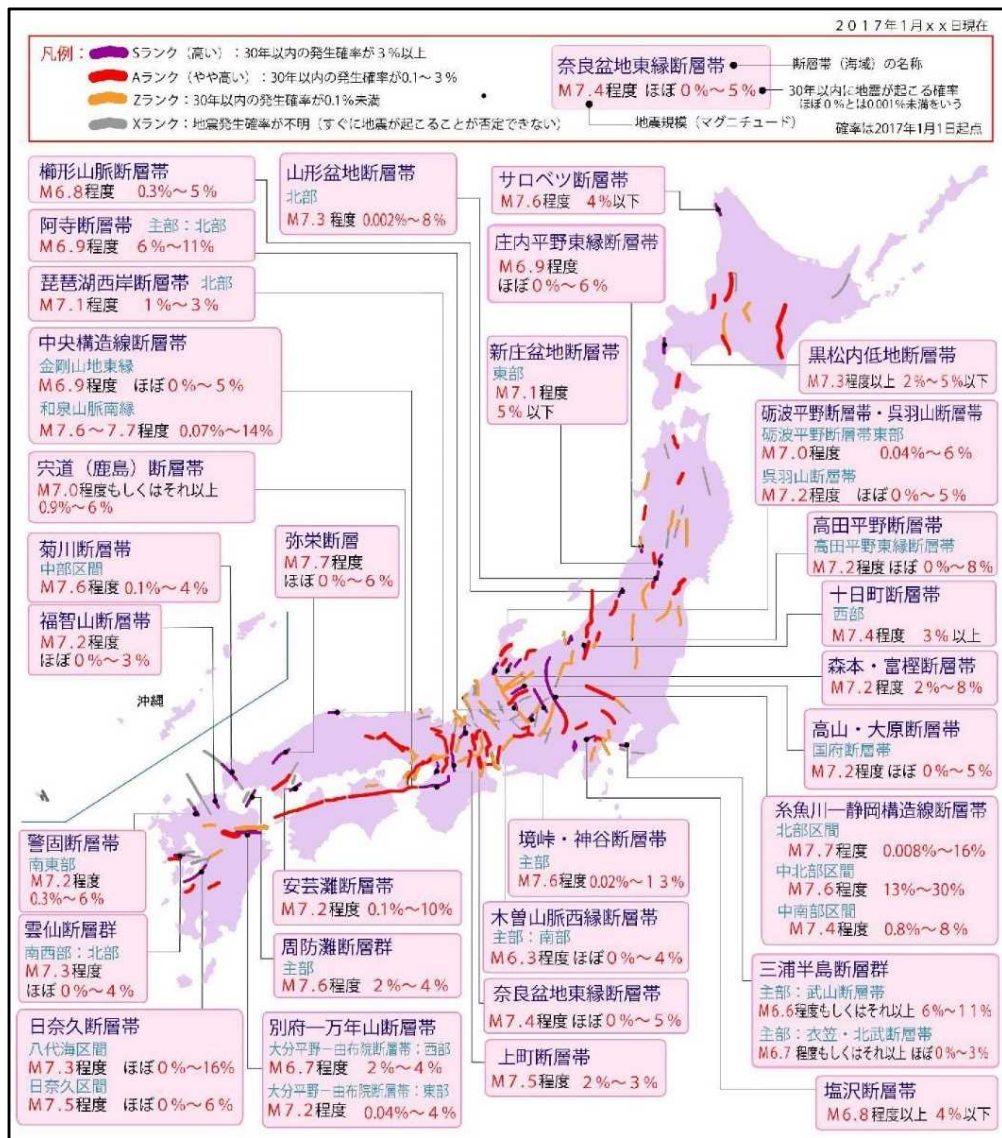


案2: 陸地の背景色が薄い赤紫 (RGB230,201,242) 案3: 陸地の背景色が濃い茶色 (RGB109,73,62)

変更方針2:全面的に変更

凡例	色(RGB)	
Sランクの活断層		153,0,153
Aランクの活断層		255,0,0
Zランクの活断層		254,153,0
Xランクの活断層		153,153,153





案2: 陸地の背景色が薄い赤紫 (RGB230,201,242) 案3: 陸地の背景色が濃い茶色 (RGB109,73,62)



案4:陸地の背景色が薄い灰色(RGB214,218,213) 案5:陸地の背景色が深緑(RGB101,130,70)

(注)掲載している図はイメージのため、実際の内容と異なる部分があります。

【変更方針1】

メリット:

- ・他の警戒情報と整合が取れる。
- ・Zランクの活断層の色のみ変更するため、利用者への影響は最小限に抑えられる。

デメリット:

- ・黄色系統の色は輝度が高いため、一番目立ってしまう。
- ・海域の背景色が白のため、海域に及ぶZランクの活断層が見づらい。

【変更方針2】

メリット:他の警戒情報と整合が取れる。

デメリット:最もランクが高いSランクの配色を変更するため、過去の公表資料との整合性について留意する必要がある。

※いずれの変更方針にしても、変更タイミングは慎重に検討する必要がある。